

黒島天主堂（国重要文化財）

フランス人マルマン神父の設計と指導のもと 1902 年に完成した黒島天主堂は、一部木造の煉瓦造の教会堂です。地元のカトリック信徒の献金と労働奉仕の支援により建てられました。この当時としては大規模な教会建築で、三階層構造（アーケード、トリフォリウム、クリアストーリー）をもち、後の教会建築に影響を与えました。教会内には、マルマン神父手作りの説教壇など当時の備品も多く残されています。宗教儀礼の時以外は、一般に公開されています。

串ノ浜岩脈（長崎県天然記念物）

この岩脈は地下の溶岩が岩盤の裂け目に入って冷え固まり、海岸の波で柔らかい岩盤が除かれ、固い溶岩がまるで防壁のように突出したものです。

総全長 300m 以上もあるこの岩脈は長崎県最大の規模を誇ります。火山性の地質構造を間近に見ることができる自然の造形です。気象条件に注意し、見学は潮が引いたときを選んでください。

根谷のサザンカ（佐世保市天然記念物）

高さ 10m 以上、幹回り 1 m80cm、そして推定樹齢 250 年のこのサザンカは、長崎県最大級の巨木です。毎年、白い花（黒島潜伏キリシタンのシンボルのひとつ）を咲かせます。実から採れる油は、1800 年頃に黒島に移り住んだ彼らの生活の一部を支えました。

信仰復活の地 出口家

黒島の現在の人口約 470 人のうち約 8 割はカトリック信徒です。彼らのほとんどは、西彼杵半島の外海地方から移住した潜伏キリシタンの子孫です。1862 年、長崎に居住している外国人のために大浦天主堂ができると、黒島の出口大吉とその息子は長崎に出向いて信徒であることを打ち明けました。その後、黒島の潜伏キリシタンは続々とカトリックに復帰しました。禁教令が続くなか、外国人神父が来島し、出口親子の家でミサが行われました。そのため、ここは黒島のカトリックの歴史上、重要な場所となっています。

その他の史跡等

黒島神社の自然林、本村の役所跡、興禅寺。